

みやの森通信



発達凸凹向けフリーペーパー 第40号:2025年07月03日発行 編集長:家森 謙
Ponteとやま(みやの森カフェ) 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733
メール:miyanomori.ponte@gmail.com

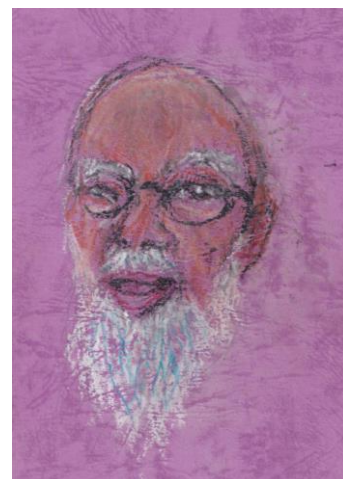
Ponteとやま facebook 検索



99歳 つれづれエッセイ vor23

我が人生論 その2

引き続き論旨を展開しよう。十二年程前のことであるが、東京のある大学の人文研究科の調査を受けたことがある。テーマは日本人の死生観で、調査員は五十歳の学生でユニークな女性であった。一時間ほどの雑談の中で「貴方の死生観をお聞きたい」と問われたがあまり考えたこともなく、その場の雰囲気「格好良く終わりたいな」と軽く言葉がでた。その後しばらくはこの言葉が頭の中に残っていたが、考えてみると空疎な発言であることに気がついた。生きとし生きるものに滅せぬものはないと言うものの具体的に何時何処でどのように終わるかは自死を除いて己が裁量出来るものではない。石原慎太郎氏はすでに鬼籍の人になったが、彼が死への道程という絶筆とも言うべき論文に



「死の先にあるものについて虚無は歴然として存在する」との西洋の学者の言葉を引用している。やさしく言うと「死んだらなんにも残らないよ」ということだ。さらに死が現実の問題となったら未曾有のこととして狼狽は許されると客観的な言い方もしている。画家で彼の四男に言わせると父は最後まで恰好をつけていた。それが石原慎太郎である。しかし「最後まで足掻いて、おれは思い切り女々しく死んでいくんだ」の言、これが父の本音であつたろうとも言っている。安心立命を衆人に説いた高僧が、「死にとうない」といって亡くなった話はいろいろのことを考えさせられるよく出来た話である。

つい最近台湾からのお客さんが私に未来の展望はと聞いてきた。私はどう答えたか記憶にないが、今はこう答えたい。生き方として百歳の壁は高く未来を覗く事などできるはずがない。その壁を乗り越える努力をするよりも、こちら側で蒼空から降り注ぐ陽光を浴びて様々なこだわりの衣をぬぎ、裸でひっくりかえっていた方が賢明である。本来怠け者の私にはこの方が似合っている。まだ言いたいこともあるが、別の機会にしよう。

伊藤博芳(みやの森カフェのお父さん)

みやの森通信 バックナンバーはこちらから

みやの森通信

検索



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索



タカチ動物園特別編

体験型移動動物園



最近では体験が重視されるようになった。ワークショップという言葉も今や真新しい言葉ではない。

タカチ動物園ではワークショップを重視している。特に人気なのがアズマヒキガエルのモグモグタイムだ。ヒキガエルに活餌（ローチ）を与え、捕食の様子を観察するというものでクイズ形式の実演でカエルの生態を知ることができる。だが見方を変えると、活餌を食べさせ見世物にする行為は残酷といえる。なので最後に「ゴキブリに黙祷。」とすることにしている。

命への感謝の気持ちを忘れてはいけない。

展示する生き物ごとにネタを考える。カエルの鳴き声の違いであったり、ヘビの体の構造であったり、生き物の生存戦略をより分かり易く、面白く伝えたい。

だが、最近増えてきたリピーターの方に「それ前にも聞いた」などと言われるととても悔しい。ウググと思う。よってさらにネタを考えなければならない。

思えばこれほど色々考え、没頭したものは今まで無かった。アイデアを形にすることは苦しく楽しい。僕がこの活動が続ける理由の一つと言える。

最近考案したネタではクサガメが外敵から身を守るために体から分泌する悪臭の液を嗅ぐというほぼ罰ゲームのようなワークショップを考案した。分泌液を回収、密閉容器に保存、フレッシュでジューシーな臭いを保つ方法を真剣に考えている。振り返るにこれはワークショップというより罰ゲームなのではないか？刺さる人には刺さるかもしれないが、そうでなければ苦痛でしかない。常に「これは面白いのか？」と自問自答する。

人への伝わり方も気になる。特に展示方式では人がタカチ動物園のブースに留まる時間も自ずと限られる。限られた時間でただ面白いだけでなく、生物多様性や命の尊さといったより大きなテーマも伝えたい。どのようにすれば伝えることができるだろうか？

反応や評価が分からないからどうしても独りよがりにならざるを得ない。

よく「子供が喜びそう。」と言われる。どうも小学校低学年以下が対象と思われるようだ。小さな子供であってもヘビを触った際にヘビがヌルヌルしているという先入観により、認識を間違えることがある。だから小さな子供に体験は重要だ。それはそれでよいのだが、知的好奇心を失いがちな大人にこそ体験してほしいと思っている。

このように苦悩しながら考案したワークショップを是非体験してほしい。そして感想などいただけるとありがたい。



コミュニティカフェ

手芸と手話カフェスタート

水曜日のbochi-bochicafe、そして木曜日のふだんカフェの15時くらいから、手仕事をもってゆっくりまったりお茶を楽しむ方が増えてきました。一つのテーブルを囲んでそれぞれ「おしごと」をしたり、おしゃべりをしたり、お茶を飲んだり、スイーツを楽しんだり…初めて会う人でも、手仕事のお話で違和感なく盛り上がる。中には4年かけて作り上げる予定の刺繍を持ってこられた方もいました。そして、聴覚障害の方が混じるようになったら、手話も始まりました。「これは手話ではどういうの?」とかいう質問に応えてもらって、みんなで手話も楽しんでいます。

2010年に、私は「コミュニティカフェ&居場所ガイドブック富山県版」を公益社団法人長寿社会文化協会の委託を受けて作成しました。コミュニティカフェの定義はさまざま。定義として、安心、安全な飲食、情報の発信や受信、交流、学び、就労、居場所、まちづくり、相談などが挙げられています。おいしいものがあって、人がいて、交流が生まれる…それがコミュニティカフェ。

先日、このガイドブックに入っている福祉施設に併設されたカフェを再開したいと思っているという方が来店されました。この冊子が発刊されてすぐそのカフェは閉鎖されてしまったのですが、今また地域に開いた「場」にしたいということで相談にきたとのこと。なんせ15年も前に作られたガイドブックなので、その方はそこにカフェが載っていることに「奇跡ですね!」と驚いていました。

コミュニティカフェは、食べ物でも言葉でも手芸でも手話でも、いろんなものを介して人を結びつけるところです。そして、コミュニティカフェ自体も他のコミュニティカフェとつながりながら活動していけたらいいなあと思っています。そうすれば、カフェの中でも外でもいろんなつながりがさらに広がっていきますから。私は「つながる」ことは「生きる選択肢」を増やすことだと思っています。(加藤愛理子)



いただいたもの 及び Ponteとやま(みやの森カフェ)お仕事一覧 2025年5-6月

[いただいたもの] 菓子・野菜・パン・おもちゃ・本・米 など

- 5月 8日 射水市児童委員研修会 (水野)
- 5月13日 働きづらさを抱えた人たちの「就労機会拡大と工賃向上を考えるセミナー」
- 5月22日 台湾「銀享全球日台交流見学ツアー」
- 6月 1日 大空カフェ (こどもの居場所合同説明会) (水野, 川合, 西口, 小西)
- 6月 2日 南砺市主任児童委員来訪
- 6月 6日 中央労福協 全国集会2025inTOYAMA (水野)
- 6月 7日 富山市民生委員児童委員協議会来訪
- 6月 9日 砺波市フリースクール等情報交換会 (水野, 西口)
- 6月11日 南砺市フリースクール等説明会 (水野, 川合)



みなさまのご厚意に
心から感謝いたします!

空色エンドロール

水縹 翠
みはなだ すい

第五回：消えゆくもの

それは、三年前の今日起こった。私たちの中学では、毎年夏休み中に体育の枠で海水浴の特別授業が行われていた。当然、私と滯も参加していた。ただ一つ問題があった。

私は、泳げなかった。

『(またバカにされるのかな……)』

泳げない私は、毎年ここで醜態を晒し、カナヅチと野次られていた。最後まで、バカにされるのか。船上で海を眺めながら、独りため息をついた。

そんな時に『あの事故』は起きた。

『ドーン!』

その声と共に、私は海に突き落とされた。悪戯好きで有名な同級生の声であり、すぐにやられたのだと分かった。だが、悪戯では済まなかった。泳げない私は、派手に水を飲み溺れた。このままでは、でも。諦めかけた、その時。

『風!』

滯が、危険を顧みず海に飛び込んだ。それから腕を掴まれた気がして、その後はあまり覚えていない。気づいた時には、滯の墓前に立っていた。

『私が死んで清々したって人もいるみたい。うん……』

耳の裏で響く滯の声で我に返る。あの後、店主から慰めで線香花火を貰った私は、滯が憑依した池に戻ってきていた。それには理由があった。

「許せないけど、もういい。それより……」

私はそこで、貰ったライターで花火に点火した。

「滯との『最後』を、過ごしたい」

滯は何も言わない。だが、分かっていた。滯との『今』が、もうすぐ終わることは。だからこそ、伝えたかった。

「あのさ、滯」

花火を見つめ呟く。滯はもうすぐいなくなる。ならば、ありったけの想いを。

「滯は私が支えだって言ったけどさ、本当は逆だった」

本当は。

「滯が、私の支えだった」

心の病や違いに苦しむ滯を、私が支えていたのではない。私が支えられていた。この手から離れ、消えゆくもの。温かいもの。叶うなら、離したくない。

「一緒にいて。お願い……」

私の声は震えていた。どんな形でもいい。一緒に、いてほしい。滯なら、分かってくれるはず。そう思っていた。だが。

『ダメだよ、風』

彼女は、そう言った。



働きづらさを抱えた人たちの就労機会拡大と工賃向上を考えるセミナー -富山クリーン部会-

5月13日に、ウィングウィング高岡で、「働きづらさを抱えた人たちの就労機会拡大と工賃向上を考えるセミナー」を開催しました。

このセミナーでは、宮崎県でグローバルクリーンという会社を経営している税田和久氏の「働くことから始まる地域共生社会—働きづらさを抱えている人が活躍できるまちを目指して」の講演のあと、アドバンス北陸サービスの杉本健一さん、北砺ビルサービスの林真次さん、NPO法人「bーらいふ」の永森栄一さん、そしてPonteとやまの加藤知道のパネルディスカッションを行いました。

主催は「富山クリーン部会」。昨年末に立ち上がったこの部会は、清掃会社2社と就労支援事業所と私たちPonteとやまで作りました。Ponteとやまの制度外就労の参加している人は大人3名、若者15名となっています。2020年にスタートしたときは大人2名と若者1名でした。高岡南福社会の理事長澤田幸伸さんのご厚意で、清掃の道具をそろえてもらって研修を重ね、

若者たちはプロの清掃スタッフとして頑張っています。フォーラム当日には、「ガチャック」が作成してくれたPonteとやまで働く若者たちの姿とコメントの動画が流され、皆に感銘を与えました。

このシステムを障害者支援事業所や引きこもりや発達障害者支援にも広げていきたい…そんな思いを共有する企業さんや福祉関係の皆さんとコラボすることになったこの「富山クリーン部会」。ここから何が始まるのかまだ未知ですが、大きな可能性を感じています。

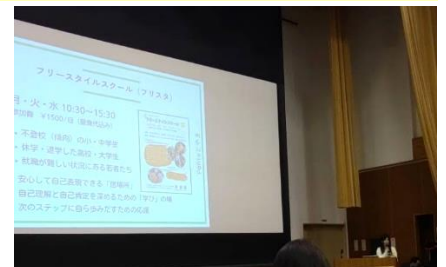


youtube.com

生きづらさを抱えた若者たちの挑戦【みやの森カフェ】

「どんな居場所がある？」居場所10団体による合同説明会

6月1日(日)高岡市ふれあい福祉センターにて、「どんな居場所がある？」～居場所10団体による合同説明会が開かれました。主催は、NPO法人大空へ飛べ(主に小矢部を拠点にこども食堂やコンサート活動などに長きにわたり取り組んでおられます)。高岡市と小矢部市の適応指導教室を含め、高岡市・小矢部市・砺波市・射水市から10団体の参加がありました。



Ponteとやまからは、川合・西口・小西3名の若者スタッフが団体説明とブースを担当しました。団体の説明に与えられた時間は7分!短い時間で「何を伝えるか」。でもこれも伝えた方がいいかな?直前まで打ち合わせをしながら臨みました。それぞれの得意分野を活かし、スライド作成、資料印刷、説明の担当決め…頑張ってくれました。頼もしい限りです。



2週間後のシェアハウスOPENDAYに、高岡市から小学生の親子が来てくれました。「この前の居場所説明会に子どもと一緒に行っていたんです。子どもが、あのお兄さんのいるところに行きたいって言ったので来ました!」とのこと。嬉しいですね。若者たちの言葉は子ども(たち)にしっかり届いていたのですね。

進む国際化？台湾から視察団

2021年コロナ禍で、あまり身動きが取れなかった頃、台湾のIrisさんが仲介してくれて、台湾との共同フォーラムにインターネットで参加しました。桃園市の木匠的家というみんなが集まる居場所的カフェの方とみやの森カフェの活動紹介と対談。父や若者たちも一緒に参加。国を超えても共通する感覚があるのだ！と感動しました。

そして、2025年5月22日、そのとき見事な通訳をしてくれたAyu chさんが「銀享全球日台交流見学ツアー」として11人の皆さんとみやの森カフェに来てくれました。

銀享全球さんは、社会的企業で、医療介護福祉分野の仲間たちと、高齢者や共生などのテーマで国際交流、国内外見学やフォーラムなど開いているそうです。今回来訪された方たちも、在宅医療にかかわる医師や介護福祉士など、福祉に興味のある皆さんでした。能登の仏子園と、富山型デイサービス「このゆびと一まれ」などを見学するとのこと。

正直、こんなちっぽけなカフェは見どころに入るのかという疑問はあります。しかし、かつて五十嵐祐紀子さんが私と水野さんを台湾に呼んでくれときに、

「うまくいっている日本の例は、資金があったり、たくさんの方がかわるもの多くて、到底私たちにはできないわと思っている人が多いので、誰でもできる！というお話をしてほしいの」と言われ、納得しました。

確かに、私と水野さんがカフェのお話をした後、

「私もリビングを開放してみる」

「きっと私も何かできると思った」（もちろん台湾語で）

という熱い思いの皆さんに囲まれました。今回も皆さん興味深く聴いてくれました。

そして、こんな小さなカフェは他の人や団体とつながることさらにパワーアップできるということで、砺波市の高齢介護課の職員の方にもお話してもらいました。いつもお世話になっているものがたり診療所や「せんだんのhill」の紹介もさせていただきました。

でも、なにより受けたのが、99歳父。質問攻めにあっていました。

「100歳の未来に何を描きますか？」と、聞かれると、「未来は無いよ。あるのは壁だね。その壁の乗り越えるかどうかだな」・・・なーんて答えて。スターのようでした。

Ayuさんや皆さんとお会いできて、また、世界が広がりました。



本当本当に **広告募集。** みやの森カフェに居る加藤へ直接お話いただくか、

0763-77-3733(みやの森カフェ)、miyanomori.ponte@gmail.com へそろそろ連絡を

募集中!

労働者福祉中央協議会全国集会 inTOYAMA

6月6日（金）富山市オーバードホールにて、
労働者福祉中央協議会（以下労福協）全国集会2025
in TOYAMAが開かれました。

労福協は、労働団体、労働者福祉に関わる事業団体、
生活協同組合の全国団体、全国に組織されている
地方労福協（都道府県ごとの労働者福祉協議会）で
構成する勤労者福祉活動のための中央組織。毎年1回、
その時々の運動課題に応じてテーマを設定し、
全国研究集会を開催しておられます。今年度のテーマは
「地域が主役！あたたかな子どもたちの居場所を」
ということで、トークセッションゲストには、
一般社団法人なかのま代表の宮田隼氏、NPO法人大空へ
飛べ代表の谷口徹氏とともに、Ponteとやまからは
代表水野が参加しました。（1週間前には大空へ飛べ
主催の居場所説明会でも顔を合わせた3人でした）



ひきこもり家族自助会とやま大地の会ピアサポーターの米谷豊さんの経験談に続き、
ファシリテータの富山国際大学子ども育成学部教授 村上満氏より、近年の子どもの状況や
抱えている課題等について問題提起があったのち、コメンテーターとして
労働者福祉中央協議会事務局長 南部美智代氏も加わってのトークセッションでした。

トークセッションには、オンラインを含めて全国から261人名の参加があったとのこと。
私たちの活動について、たくさんの方々に知っていただくことができました。
また、普段は「子ども」とか「居場所」とはあまり縁がない分野で働いていらっしゃる方々の
参加が多かったのではないかと想像するのですが、不登校を含め、子どもを取り巻く現状に
少なからず危機感や問題意識を抱いてくださったり、「自分ごと」として捉えてくださったり
したら嬉しいなあと思います。

編集長 家森謙の 目 適切な目標設定

▼年初や年度初め、仕事にプライベートに「今年は〇〇しよう！」という願望を語るのは定番だ。しかしその多くは掛け声倒れが常▼適切な目標を設定できれば、達成への道のりは半分終わったようなものという話がある。例えば、「A工程の不良率改善」を大目標にするなら、中目標は「B不良低減活動を月2回推進。活動で決まった内容を工程へフィードバック」となる。物事の難易度に応じ、活動の実現自体を評価指標にするのか、不良の低減割合をそれにするかは適宜判断すれば良いといった要領。**中目標以下で具体的かつ達成に無理が少ない内容を設定出来れば、後はそれを機械的に遂行する所へ話を落とし込める。考えながら進めなくて良くなるので所要時間も読める話に成る**▼私事だが、先月から英会話の勉強をし始めた。ノンネイティブが英語を喋れるように成るメソッドで、Lineで課題が来て、毎日30～1時間学習し、回答動画をLineで返す日々。標準2年7か月で卒業だ。「英会話が出来る」という大目標、「外部メソッドを活用し、日々、勉強のルーティーンを遂行(2年7か月間)」という中目標、そして、「2年7か月後、英会話ができる」という評価指標▼この設定の一番の問題は2年7か月という長さ。公私に様々な変化が待ち構えている中、長期間継続して物事を遂行できるか否か。これだけ勉強すればそりゃ身につくよねという話。結局、近道は無い。挑戦は始まったばかりだ

Mami のつぶやき

シェアハウス日記

現在、4人の若者が住んでいるシェアハウス。
毎日何かしらの事件が起こるため、ちょっとしたことで
動じなくなりました。そんな凸凹メンバーの朝もちょっとクセ強め。

【Mくんの場合】朝6時になると、彼の部屋からお寺の鐘のような
アラーム音が鳴り響く。シェアメンバーは次々と起床し、朝食や
身支度を始めるが、肝心の本人はまったく起きる気配なし。
ただただ部屋から鳴り続ける鐘の音…。3人が迷惑なのでは？と
思う所だが誰も気にしておらず、むしろ誰からも起こされないMくんが一番かわいそうな状況で
ある。（もう大人だから、自分で起きなさい！）

【F氏の場合】彼は、とにかく波が激しい。調子が良い日は誰よりも早く起き、自転車で出勤。
休日も大好きなポケモンのイベントへ行くため、早朝から出かけていく。しかし調子が悪い日は、
清掃ボスから「仕事に来ていない！」と連絡があり、カフェスタッフが起こしに行くことも…。
戸を叩いても起きず、体を揺すってようやく目を覚ます。一見サボっているように見えるものの、
スマホのアラームは5分刻みで設定され起きる努力はしている。
お願いだから、体調を安定させて！と周囲は願っている。

【私の場合】身体も心も融通が利かず、毎朝分刻みで同じ生活をしている。4月からフリスタの
ママたちと「たかおか朝市」に参加しているのだが、その日は3時30分起床。その後、15日くらいずっ
とその時間に目が覚める。通常の睡眠に戻れたと思ったら、また朝市。
「今年は3時30分コースかな」と腹をくくり始めている今日この頃。

あれ？住人は4人！そうだとKさんだ。Kさんの場合は…ご想像にお任せします！？
さあ、みなさんは、誰の朝と近いでしょうか？



広告

毎月第2・4日曜日5時半～8時 TEAMフリスタ出店中！！

Ponteとやまフリースタイルスクールの子どもたち&保護者有志メンバー（TEAMフリスタ）は、
今年4月より、毎月第2第4日曜朝5時半～8時に坂下町通り（高岡市）にて開催中の「たかおか朝市」に
出店中です。前日土曜日に仕込みをし、当日は4時起床で頑張っています。

昨年度、Ponteとやま10周年イベントでラーメン屋さんに挑戦した子どもたちや、豚汁&おにぎり屋
さんを開き大成功だったママたちの「フリースクール運営費に
少しでも協力できれば…」という思いから開店に至りました。

メニューは豚汁と手作りドリンク（クラフトコーラ、レモネードなど）。
Meli-Meloクッキーも販売しています。他にも、季節の野菜や干物、
パン、珈琲、手作り品などなどおいしいもの、面白いものが
いっぱい。これからの季節、日の出も早くなります。
朝飯前に「朝市」へぜひいらしてください！
子どもたち、張り切ってます👍

